

# Do service sectors need another core sector to improve their productivity?

Sachiko KAZEKAMI (Chukyo University)

中京大学 風神佐知子

## <要旨>

本稿では、地域のサービスセクターの生産性は、他地域へ移送可能な財・サービスを生産するような地域のコアセクターにより高められるのか、そのようなセクターによることなく生産性は上昇するのかを分析した。

日本を含めた先進国において、付加価値または就業者に占めるサービスセクターの割合は大きい。従ってこのセクターの生産性を分析することは経済成長へも大きな意味を持つ。かつては生産性の上昇が望めないサービスセクターの増大により経済成長が鈍化する *Baumol's disease* などが唱えられたが、近年の研究ではサービスセクターの中には生産性を上昇させ経済成長に貢献するセクターがあることなどが実証されている。

サービスセクターの生産性に関する研究は、これまで人口密度が高まることで生産性が上昇するとする密度経済か、あるいは知のスピルオーバーや企業と労働者のマッチングの質の上昇によるとする集積経済に焦点があてられてきた。しかしながら、未だ明確には生産性上昇のメカニズム自体は実証されていない。さらに、本稿で特に注視するサービスセクター以外の地域の産業構造までは捉えられていない。コアセクターの存在有無は地域のサービスセクターの生産性上昇に影響を与えないのか、それとも生産性を上昇させているのか、影響を与えるならばどのようなメカニズムなのかを明らかにした。

日本においては、これまではデータの不完備などからサービスセクターの研究自体が少ない。また本稿の分析により、サービスセクターの生産性上昇には当該産業への支援が有用なのか、より広く対象とした方が効果的なのか、示唆できよう。

現時点の分析の結果からは、次のようなことが言える。コアセクター（製造業）の存在はサービスセクターの生産性に有意に正の効果を与えていた。この効果は、以前の産業構造や年齢構成をコントロールしても失われないことから、製造業からサービスセクターへの高生産性労働者の移動や生産年齢人口の増加によるサービスセクターの生産性上昇の可能性は棄却される。また、本稿でも先行研究と同様に人口密度はサービスセクターの生産性を高めていたので、コアセクターからの効果を人口規模別にも推計した。その結果、人口規模が大ききところほどコアセクターの存在（製造業就業者割合）は大きな効果を持ち、反対に製造業の給与の高さは人口規模の小さきところで大きな効果を持っていた。また、生産性の分布を観察すると、コアセクター割合が高いところほど分布の広がり狭くなり、低生産性の企業は淘汰されていた。サービスセクターへの需要が高まることで競争が激化し、企業の生産性が上昇し、かつ低生産性企業が淘汰され、地域全体の生産性が上昇するとする先行研究と整合的な現象がみられた。